

「ネットの向こう側には」 9月号 ～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

情報の収集や発信、コミュニケーションなどのインターネットがどんどん普及し、私たちの生活を便利にしてきました。総務省の「情報通信白書」によると、令和3年の日本のネット利用率は、82・9%となっています。

しかし、便利さの一方でネット上では、誹謗中傷や差別的な書き込みなどの有害情報が増え続けて、深刻な社会問題になっています。令和2年5月、テレビに出演していた女性が、会員制交流サイトで一部の視聴者から激しい中傷を浴び、自らの命を絶つという事件が起きました。同年11月には東京の小学校で、授業で使うタブレットに悪口が送信され、取り返しのつかない痛ましい事件も起きました。匿名性と手軽さを特徴とするネットでは、一度情報が公開さ

れてしまうと、書き込まれた内容はその真偽が確認されないうまま、たくさんの人に瞬時に伝わることもあり、被害をさらに大きくしてしまいます。

さらに今では、スマートフォンの普及によって簡単に動画や音声、大量な情報などをやり取りすることが可能になりました。しかし、それが差別を助長するようなマイナスのイメージを広めることに使われると、見過ごすことのできない人権問題につながってしまいます。その影響力は極めて大きいと危惧されます。

インターネットにつながった端末の前には、何万人もの「人」が存在しています。ネット上で何らかの情報を発信する際は、常に相手の存在を意識し、自分と同じように尊重されるべき人権があることを理解することが必要です。

誰もが安心して暮らせる人権尊重

社会の実現をめざし、日頃から相手の立場になって考える姿勢を忘れずにいたいものです。

